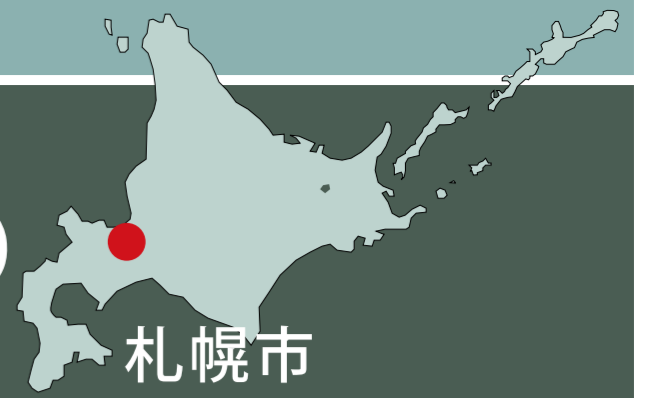


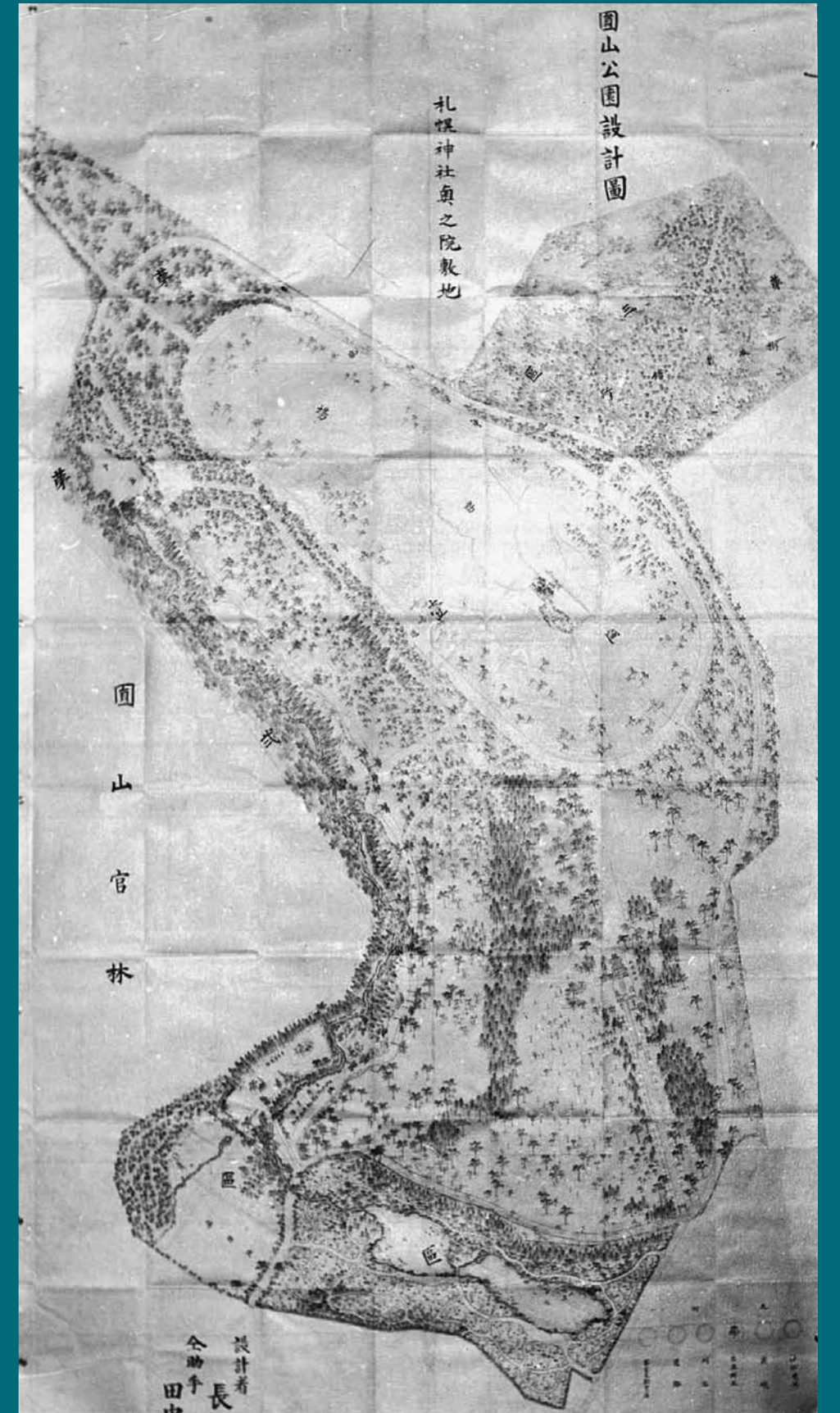
円山公園・北海道神宮境内域 (札幌市)



札幌市



官幣中社札幌神社境内之春光 1899 (明治32)年 黒野良象発行



長岡安平による円山公園設計図

札幌市民の心の拠り所である空間

北海道の開拓・発展のために建立された札幌神社（現北海道神宮）の境内（約18ha）では、1871(明治4)年に社殿が建てられ自然林が保護され、献木による植樹がなされてきた。また、外苑においては1880(明治13)年に開拓使により内外樹木の適地試験や苗木育成のための養樹園が設けられた。その跡地には杉の樹林や各種の樹木が現在に残されている。

1903(明治36)年に公園予定地となり、1907(明治40)年には周辺を含め長岡安平による設計がなされた。設計通りには実現しなかったが、その後、公園としての整備が進められ、現在では動物園や陸上競技場などを含め歴史ある総合公園（約69ha）として、多くの市民に利用され親しまれている。

また、対象地域は古くから桜の名所として知られているほか、自然林と人工林が特徴的環境を形成し、天然記念物(国)となっている“円山原始林”と併せ、札幌の魅力を高めている。



札幌では特異な杉林の景観



桜並木が美しい北海道神宮境内

概要

| | | |
|-----|--------------------|------------|
| 名称 | 円山公園 | 北海道神宮境内 |
| 所在地 | 札幌市中央区宮ヶ丘 | 札幌市中央区宮ヶ丘 |
| 管理者 | 札幌市 | 北海道神宮 |
| 規模 | 約69ha | 約18ha |
| 種別等 | 都市公園(総合公園)官幣大社 | 官幣大社 |
| 整備年 | 1907(明治40)年長岡安平の設計 | 1871(明治4)年 |

隣接する円山原始林と共に、市民の心の拠り所になっている